

感染リスクにさらされる女性

一方、コロナ禍ではエッセンシャルワーカーに注目が集まりました。これは、医療・福祉や行政、流通などのように、社会の維持に不可欠である職業に就いている人たちのことで、感染リスクと隣り合わせです。とくに、医療・福祉に従事する女性は、男性の3.1倍に上っています。※6

※1・3 令和2年4月労働力調査結果（総務省統計局）
※2・6 労働力調査（基本集計）令和元年度平均結果（総務省統計局）※4 新型コロナの影響・シングルマザー世帯への支援策に関するアンケート結果（2020/04/13 暫定版）※5 ひとり親家庭への新型コロナ（COVID-19）の影響に関する調査 6月アンケート分析（近藤）

LGBT（性的マイノリティ）、不妊治療などの人々に医療の壁

電話ダイバーシティの調査によると、日本におけるLGBTの人は全体の約9%。この11人に1人という割合は、左利きや血液型がA型B型の人の割合とほぼ同じです。

コロナ禍でLGBTの人たちは、ホルモン治療を継続できなくなった、戸籍変更の手続きが滞ってしまった、など様々な困難を抱えました。また、それまで不妊治療を続けてきた女性は、治療延期の検討を選択肢として提示されたなかで継続が難しくなり、妊娠を諦めざるを得なかった人もいたことでしょう。

新型コロナの影響で公共施設などが一斉に閉館したことにより、彼らや高齢者など同じ悩みを持つ人が集まり、共有する場が奪われてしまいました。利用者にとっては、大きな痛手となったのです。これからの社会では、インターネットを利用すれば活動の交流は存続可能です。半面、オンラインではなく、直接人と話せる場を持つ大切さに気づいた部分もあり、その両方の活用が、いっそう重要になってくるでしょう。（山崎）

支援とふれ合いの大切さを—

NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロ

理事長 小俣 みどりさん



どのような状況になっても子育て支援は必要なので、活動を止めることは考えませんでした。ですが、人が不特定に集まる子育て広場は中止になったので、ホームページで手遊び動画を配信し、家での親子遊びに役立つ工夫をしました。

子育て支援者育成の講習会は、延期しました。一時は、電車・バスの移動を休止したので、遠い場所のご家庭への訪問支援は大変でした。この機会に、ピッコロが作成した「安全チェックリスト」を女子医大・東京医大の先生に専門家の立場からも助言をいただき、現在も活用しています。

コロナ禍で、保護者の働き方の変化や外遊びの中止など、大人の都合で子どもに負担がかかっています。しかし、子どもは、様々な人とふれ合った体験で育つのです。大人も、家に一人きりで子どもと向き合い続けると、孤独で不安になりますが、誰かと話せることで全く違ってきます。

ふれ合いが難しい時だからこそ、人と人との関わりや、思いやりが大切です。地域のつながりを大事にし、お互いを思いやりつつ、今後も子育て支援を続けていきます。（中嶋）

「待っていてくださる」と休まず訪問

みやびやか旭・清雅ヘルパーステーション

管理者 石川 亜砂美さん



3月下旬頃から、マスクや手袋等予防具が手に入りにくくなりましたが、幸い事業所は感染予防用品の備蓄があったので、不足してケアに困ることはありませんでした。

こうした状況下で、ほぼ全員のヘルパーが仕事を続けてくれました。「私が訪問しないと生活が困る」「訪問を待っていてくださる方がいる」と。利用者は高齢の方であり、基礎疾患や重篤な疾患の方もいらっしゃるため、細心の注意を払いケアしています。現場では緊張の連続ですが、平常心でケアに努めてもらえたことは心強く、これからの希望だと感じています。

緊急事態宣言が出され、どうしたらケアを継続しつつヘルパーと利用者の安全を保っていただけるか、清雅苑グループで「感染症対策会議」を毎週開催し作業チャートを作りスタッフを2グループに分け、もしもの時にも途切れずケアができるようにしています。

コロナ禍の中で得た経験は貴重であり、今後のケアに活かしていけると確信しています。（山口）

給付金と世帯主

新型コロナ対策として歓迎されたはずの特別給付金ですが、世帯主（単身、ひとり親を除く世帯主の96%が男性*）に家族分をまとめて振り込む、という形で発表されました。しかし、DVに苦しむ女性や家庭内別居中などの事情で受け取れない、という声があがり、その結果、避難中の女性は自分の口座で受け取れる形に変更されました。

この問題は自然災害が起こった事態でも表面化してくる可能性があり、今後も注視すべき点でしょう。

* 国立社会保障・人口問題研究所 2015 年

相談窓口情報

・DV相談

内閣府 DV 相談+（プラス） <https://soudanplus.jp>

☎ 0120-279-889 電話・メール 24 時間受付

チャット相談 12 時～22 時

・新型コロナの影響による労働相談窓口

東京労働局 総合労働相談コーナー ☎ 03-3512-1608

土日祝日・年末年始を除く 9 時～17 時

コロナ禍と女性への暴力

コロナ禍で世界でも日本でも、まず「女性への暴力」に対する懸念の声が上がりました。

夫が、収入減や失職によるストレスで家族に暴力を振るう。1 日中家にいる夫に監視されて DV の相談ができない。逃れるため母子で家を出たい。学校は休校、家に居場所はなく、少女たちは街中を彷徨する……。

対面での DV 相談を電話に変更した自治体（清瀬市は通常通り実施）もあるなか、NPO など民間支援団体にも、こうした母子や少女たちからの切実な相談が寄せられました。

DV 被害者以外にも、所持金が底をついた女性たち、性被害にあつて妊娠したかもと不安な少女や、アルバイトがなくなり食事も満足に摂れない少女たちに食事と寝場所を提供し相談にのる団体もありました。

行き場がない人たちに「いつでもおいで」と言ってくれる場所があることは、誰にとっても心強いことであり、社会に声をあげて現状を伝える役割を果たしたと言えます。（山口）